

聖地のこどもニュース

# オリーブの木

No. 53

2014年 8月

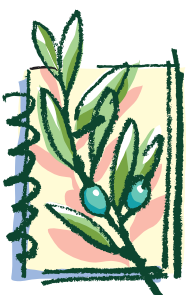


「平和の架け橋プロジェクト in 東北」3カ国の参加者が無事東京駅に集合。8月5日午前10時。

イスラエル・パレスチナ・日本の若者たちが力を合わせて被災地の復興をお手伝いするプロジェクト「平和の架け橋 in 東北」は4年目を迎え、今年も岩手県大槌町でボランティア活動に取り組みます。ガザでの悲劇が続き、果たして彼の地の若者たちが心を開き合えるのかどうかがかこれまで以上に心配されましたが、参加者たちはテルアビブ空港を現地時間の8月4日早朝に飛びたち、無事成田に到着。東京駅で日本の参加者と合流して、プロジェクトがスタートしました。

平和への希望の灯が吹き消されそうな今こそ、若者たちが対話の可能性をわずかでも開いてほしいものです。平和の架け橋を築く活動へのご理解とご協力を、これからもよろしくお願ひします。

井上 弘子 スタッフ一同



NPO法人 **聖地のこどもを支える会**

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-7-502

TEL & FAX **03-6908-6571**

E-mail : seichi@k.email.ne.jp hiroko@michi-no-kai.com

ホームページ : <http://seichi-no-kodomo.org>

郵便振替 : 00180-4-88173 加入者名: NPO法人 聖地のこどもを支える会



Accountability  
Self-Check 2008

当NPOは、国際協力NGOセンター(JANIC)によるアカウンタビリティ・セルフチェックを受け、基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について適正に運営されていると認定されました。

2014年の「平和の架け橋」プロジェクトがスタートしました。3カ国の若者たちと地元の皆さん方が交流する「平和のつどい」など、さまざまな活動が予定されています。（詳細は次号でご紹介します）



新幹線の車内でさっそく交流。みんな体調に気をつけて、実り多い12日間を。報告会（8月16日（土）14:00～、JICA東京国際センター）でお会いしましょう。

## 事前研修会のまとめと参加者の決意表明

プロジェクトに先立つ6月21日～22日と7月21日、JICA東京国際センターにて事前研修会が開かれました。プロジェクトに参加する若者とスタッフ計9人が参加、充実した3日間を過ごしました。



### 研修会のあらまし

#### ●第1回 6月21日（土）～22日（日）

##### 1日目

午前 自己紹介・アイスブレイキング、当NPOの概要説明、DVD『未来へのおくりものスペシャル』視聴

午後 参加者による課題発表～中東の歴史、分離の壁、入植地問題、和平交渉、国際社会の反応～、善光寺玄証院住職、福島貴和さんのお話『いのち寄り添う』

よる 大槌町交流会での出し物の検討、日本語・英語・ヘブライ語・アラビア語での歌「花は咲く」の練習、イスラエル・パレスチナ人参加者とスカイプで顔合わせ

##### 2日目

午前 震災ドキュメンタリー番組視聴、大槌ベースのスタッフのお話『ボランティアへの心構え』

午後 ディスカッション『ボランティアへの心構え』、専門的な英単語の理解と共有、決意表明の作文と発表

#### ●第2回 7月21日（月）

午前 アイスブレイキング、イスラエル・パレスチナの近況について情報共有、交流会出し物（ソーラン節）の練習

午後 日本語・英語・ヘブライ語・アラビア語での歌「花は咲く」の練習、大槌町交流会での出し物の詳細検討、交流会出し物（ソーラン節）の練習、イスラエル・パレスチナ人参加者とスカイプで対話

## 参加者の決意表明

### ◎ラベルをはがして個人と向き合う

大場 夏希

二度の事前研修と「友好の夕べ」を経て、少しずつ、イスラエルとパレスチナを身近に感じられるようになってきた。イスラエル・パレスチナは、これまで社会科の授業で紛争の止まない地として習い、ニュースで見ていた遠い国だった。しかし平和の架け橋 in 東北 2014 に参加が決まってから、現地に行ったことのある人たちから話を聞き、8月にやってくる学生たちと言葉を交わして、ようやくそこに住む人々の顔が見えてきた。今はただ、双方の犠牲者がこれ以上増えないことを祈るばかりである。8月5日の出発を目前に控え、今一度、私に何ができるのか考えた。

本プロジェクトは、たくさんの方の支えで実現される。参加者は私たち日本人学生、イスラエル・パレスチナの学生だが、私たちを受け入れて下さる岩手県大槌町の方々、さらには支援者の方々やスタッフの皆さんがいなければ成り立たない。私はイスラエル・パレスチナの悲劇を今すぐに止める力は持たないし、大槌町の復興に何が出来るわけでもない。正直に言えば、「私に何が出来るか」という意識はいつの間にか消えていて、ひたすらにみなさんとの出会いを楽しみにしている。

ある人の出身地がイスラエルでもパレスチナでも東京でも岩手でも、あるいはその他の場所でも、それは、その人のアイデンティティの一つに過ぎない。私がいま願うのは、まず自分が、相手に貼られたラベルをはがして、その人個人と向き合える目を持つこと。

もちろんそんなに簡単ではないかも知れないが、だからこそ、今年の夏の2週間はいつもより意識してたくさんの人と出会いたい。私も、日本人の大学生という前に、大場夏希個人として出来るだけ多くの友達を作りたい。

それこそが長い目で見て、やがては平和に繋がるのだと信じたい。

### ◎できることを最大限やって

植田 陽香

私は、今年三月のイスラエル・パレスチナでのスタディツアーに参加した。スタディツアーを通して、平和とは、自分にできることとは何かとずっと考えていたが、未だに自分の中で答えが見つかっていない。しかし、頭で考えても分からないからこそ、自分は、イスラエル・パレスチナと関わり続けるべきであり、その関わりの中で、見えてくることもあるのではないかと考えたため、プロジェクトへの参加を決めた。

被災地でのボランティア、と聞いて思い浮かぶのは、昨年京都府福知山市での豪雨の復興ボランティアの経験だ。私は、浸水したお宅の泥をかき出したり、掃除をしたりしただけで、自分としてはそれほどすごいことをしたつもりはなかったのだが、そのお宅のおじいさんがとても喜んでくれ、私も心から嬉しかった。その時私は、自分にできるのは本当に小さなことではあるけれど、それでもできることを最大限やって、困っている人の力になろうと決めた。

今回のプロジェクトでも、その気持ちを忘れずに、現地の人達の気持ちに寄り添いたい。

### ◎第三国の人間だからこそ言える疑問を

舎川 春佳

遠くの出来事だったものを実感として捉え、そして自分が何を出来るかを考えたい、こう思ってわたしはこのプロジェクトに参加を決めた。日本を大きく変える事になったあの東日本大震災のあと、行動したくとも何をしていいかわからず、募金はしたものの傍観者のままであった。いよいよ現地に行って、3年経った被災地を目にする。報道がどんどん減る一方で、被災地の生活は、忘れられていいほどに回復していないとも聞き、自分の目で見ないことが気持ち悪いと思うようになっていた。

事前研修ではイスラエル・パレスチナ間の基本的な問題を調べて共有し、両国からの参加者ともスカイプを通じて話すことができた。様々な要素が絡み合った複雑な歴史があることが分かった一方

で、直接話をしたイスラエル・パレスチナ側参加者は、皆どこにでもいるような若者だった。深刻な現状の自国を離れて遠い第三国からイスラエル人・パレスチナ人同士で話し合うことは、彼らの人生に大きな影響を残すだろう。

第三国の人間だからこそ言える客観的で素朴な疑問をぶつけたい。

## ◎市民同士を見れば

齊藤 鉄也

プロジェクトに参加しようと思ったきっかけは、大きく分けて二つあります。

一つは三年前に東京で高校生だった自分が東日本大震災を体験し、いつか被災者の力になりたいと考えていたことです。高校生の自分にはまだまだ行動力が足りず、ボランティアに参加したいけれども受け身になってしまい、結局今日までもやもやした日々を過ごしておりました。今回たまたま友人から紹介を受け、こうしてプロジェクトに参加できるのは、かねてからの希望を実現させる良い機会だと思います。

ボランティア活動で最も大事なことは、被災者の話をしっかり聞くことだと思います。彼らの必要に応じることで、彼らの町を復興するための小さな力になれば嬉しいです。少ない日数であっても被災者の皆様に少しでも喜んで頂けるように、現地での活動をしたいと思います。

二つ目は、イスラエルとパレスチナの人々が地球の裏側にある日本で交流するお手伝いができることです。

イスラエルとパレスチナでは、未だに紛争が絶えません。メディアでは仲違いしている姿ばかり目にします。しかし市民同士を見れば、お互いの共通点や妥協点を見つけ合うことで友好的関係を築くことが出来るのは誰の目にも明らかです。日本では東日本大震災で家族や友人を失った被災者の方が大勢いらっしやいます。イスラエルパレスチナでは今日も市民が紛争の犠牲となっています。背景や理由は大きく異なりますが、身近な人物からすれば、どちらも友人や家族を「失った」ということにかわりは

ありません。双方の気持ちをうまく引き出して、通訳として伝えていければ良いと思います。

以上の二つを念頭に、プロジェクトの成功に貢献していきたいと思います。

## ◎与えられに行く

中尾 有希

事前研修に参加して考えたことは、私がこのプロジェクトに参加する意義は何であろうかということです。春のスタディツアーの参加者として、一人のクリスチャンとして、また実行委員のメンバーとして、私に出来ることは何であろうかということです。

今のところ答えは出ていません。多分、プロジェクトが終わってしばらくして、思い出を反芻してやっと出てくるものだと思います。けれども一つだけ見つけたのは、「私は与えるのではなく、与えられに行くのだ」ということです。自分が何か提供しようと、役に立とうと努力をしても、結果的に何かを授かるのです。春のスタディツアーの時も同じ経験をしました。

プロジェクトまでの準備期間、そしてプロジェクトの間、この謙虚さを保ち続けることが私の課題であり、そして決意です。「いのち寄り添う」という姿勢、ボランティアされる側の視点を追求し続けることで、自分のすべきことはおのずと明らかになると信じます。だから、気負うよりも、静かな心で耳を澄ませる、相手の話をじっくり聴く、それによって、自分に与えられたものに感謝する。そんな2週間になりたいと思います。

私がこのプロジェクトに参加することにはきっと

## NPO法人聖地のこどもを支える会の 会員になりませんか？

さまざまなプロジェクトをはじめ、教育支援事業など、当会の活動を総合的に支えていただく会員制度。あなたのご意見が、平和のつくり手を育てます。事務局までお気軽にお申し出ください。

入会金:5,000円 年会費:10,000円(学生7,000円)  
会員は、当法人の総会等での議決権を行使することができます。

意味があり、計画があると信じます。このプロジェクトは、今まで自分が歩んできた道に連なり、そして未来へとつながるものです。この連続性のうちに、プロジェクトの意味、私の人生にもたらす意味を考えていきたいです。

### ◎この目で確かめ、模索していく

川橋 天地

今回のプロジェクトを通じて私は、イスラエル、パレスチナの学生とともに東北被災地ボランティアに携わり、天災の悲惨さや命の尊さに対して見つめなおしていきます。

私自身、何度か被災地を訪れましたが、震災から三年半という月日が流れて、今どのような状況なのか、どのように貢献していけるのかをこの目で確かめ、模索していくことにやりがいを感じています。短い期間で目に見えて力になれることは少ないかもしれませんが、いかに現地の人々の役に立てるかを懸命に考えます。

また、イスラエルとパレスチナは現在混迷が深ま

り、このプロジェクトに参加予定の学生たちの心にも深い傷ができています。紛争が続く彼ら彼女らの故郷では、日々の生活に精一杯で、天災や人災、個人の命の尊さを見つめ合う機会がなかなかないかもしれません。そんなイスラエル、パレスチナの学生たちの橋渡しをし、ボランティア活動を通じてともに理解を深める手助けを、日本人学生にはできると思います。

イスラエル・パレスチナの学生との交流、ボランティアを通じて、将来の中東問題、東北の復興を担う私達の世代が一回りも二回りも成長できることを信じ、全力でプロジェクトに向き合います。



## 絶ち切れない憎悪の連鎖

村上 宏一 (当法人理事)

イスラエル人少年3人が誘拐され(6月中旬) 遺体で発見される。イスラエル政府はただちにイスラム過激派組織ハマスの犯行と断定(6月末)。パレスチナ人数百人が逮捕され、容疑者の家が破壊された。パレスチナ人少年がイスラエル人に誘拐・殺害され、ハマスがパレスチナ自治区ガザからロケット弾を発射、報復としてイスラエル軍がガザを空爆(7月上旬)。イスラエル軍は戦車などで地上侵攻も開始(7月中旬)。イスラエル軍撤退(8月5日)——これがイスラエルとパレスチナの間で起きている「現在の」悲劇の、ごく簡単な経過です。

聖地のこどもを支える会は今年も、岩手県大槌町でのイスラエル・パレスチナ・日本の若者によるボランティア活動をします。「オリーブの木」No.53が印刷されるころには、イスラエル・パレスチナ双方の若

者たちが来日しているはずで。彼の地での衝突が、この若者たちにどのような影響をもたらすか大いに気がかりです。しかし、こんな時だからこそ、敵対する両民族の若者たちが共に作業をし、語り合うことの意味は大きいと言えるでしょう。その意義を思いつつ、憎悪の悪循環について考えたいと思います。

2001年9月11日に米国を襲った同時多発テロ。ニューヨークの貿易センタービルに旅客機が突っ込み破壊するなどのテロ事件について、当時、朝日新聞の中東アフリカ総局長としてエジプトのカイロにいた筆者は、次のような趣旨の記事を書きました。

「このテロによる犠牲者の遺族・関係者が『なんで罪のない市民を狙うのか』と理不尽に思い、怒るのは当然だし、一度に千人単位の人が殺されるのを見つけた惨劇は、テロをする側への憎しみを煽つ

た。一方、イスラエル占領下のパレスチナでは、許可なく家を建て増したという理由だけで家を壊されるということがよくあった。自治移行後も例えばガザ地区で、テロリストの隠れ場所になる、などの理由で民家が破壊された。圧倒的な武力を持つイスラエル兵を前になす術もなく家を失う人々の『理不尽な』という怒りの総和は、米国での同時多発テロが引き起こした怒りの総和に勝るとも劣らないかもしれない。日常的に積み重ねられるため、一瞬に凝縮された惨劇のように派手に報じられないだけなのだ」

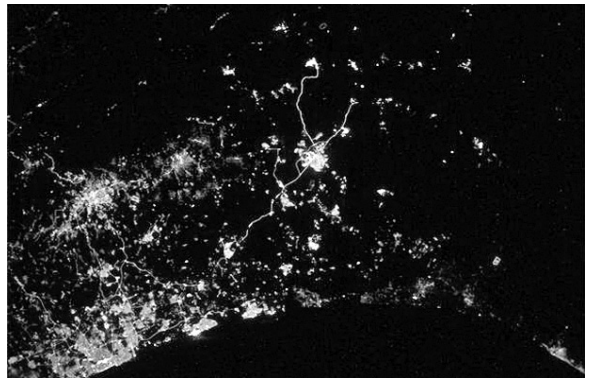
ここで言いたかったことは、もちろんテロを正当化することではありません。武力を持たない、あるいは武力では圧倒的に不利で通常の戦闘行為では戦えない時、テロは弱者の武器として常に利用されてきた、ということです。武力にせよ、資本の力にせよ、無力な側が理不尽な思いを抱きながら屈服させられ、屈辱を味わわせられるところに、テロの芽が育つと言っていていいでしょう。力で抑えられている人々の「自分たちの思いは伝わっていない」という気持ちに目を向ける必要があります。

イスラエル・パレスチナ間の衝突が繰り返される中で、イスラエル人少年の誘拐・殺害に端を発した最新の悲劇は、ガザ地区を実効支配しているハマスが武力でイスラエルに対抗することができると勘違いしていることが、イスラエル側の攻撃の口実となり、民間人の犠牲を大きくしている側面があります。犠牲を数字で比べることはできませんが、ロケット弾によるイスラエル側の犠牲者の数は、

千八百人を超えるガザ住民の犠牲者の数とは比較になりません。とはいえ、いつ、どこに飛んでくるかわからない空襲に対する市民のおびえに変わりはなく、いかに不均衡でも、イスラエル側も被害者として対等と主張できるのです。

「オリーブの木」の前号に掲載の「繰り返される平和の危機」でも触れましたが、和平に向けて譲歩を示し妥協を促せるのは、武力でも経済力でも圧倒的に強いイスラエル側だと思われるのに、ユダヤ人の受難の歴史を引き合いに出し、「いつもテロの脅威にさらされている」という被害者意識で、イスラエル軍の攻撃にさらされるパレスチナ側の被害とバランスをとるのです。従って、空からのミサイル攻撃、戦車を投入しての地上攻撃も、自衛のための対等な戦闘行為だと訴えるのです。

こうして、いずれの譲歩もなかなか引き出せないまま殺し合いが続く中で、ボランティアのために来



国際宇宙ステーションから撮影された、パレスチナ・ガザ地区の夜景。ロケット弾と思われる光跡や爆発のような光が見えます。宇宙飛行士がツイッターに投稿、インターネット上で話題に。

## インターネット寄附で目標金額を達成!

ご支援ありがとうございます

4月より、インターネット上でのクラウドファンディング“ReadyFor”にて「平和の架け橋」プロジェクトへの支援金を募ってきました。皆様のおかげで、目標金額を達成することができました。心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

プロジェクト名	達成率	達成金額	終了日
7000円が目標金額です!	100%	214,000円	7月26日
7000円が目標金額です!	107%	864,900円	7月26日
7000円が目標金額です!	131%	405,000円	7月26日
7000円が目標金額です!	101%	3,940,000円	7月16日

「目標を達成したプロジェクト」のページに掲載されています。

# 日本の支援者の 皆さま、ありがとう!

日本の支援者の皆さま、ありがとう! 心から感謝します。おかげさまで、この1年間、延べ167名の生徒が学校へ通うことができました。

それぞれの学校の校長先生から領収書をいただいています。援助を受けている生徒の中には、イスラム教徒もキリスト教徒もいます。

里子も継続的に支援を受けています。

所在地・学校名 支援できた  
生徒数

●エルサレム	
聖ジョージ学院	15
聖ヨゼフ学院	1
聖アントニオ コプトスクール	4
聖タルクマンハス学院	19
テラ・サンクタ学院	9
シュミット学院	3
アル・サナファー スクール	1
アルフォルサン スクール	1
サレジアン・シスターズ スクール	1
エクセレンス 高等スクール	2
プリンセス・バスマ スクール	3
ズホール・アル・コッズ 幼稚園	1
●ベツレヘム	
善き羊飼いスクール	10
エルサレムスクール	10
シラ養護スクール	11
聖エフレムスクール	9
ライフ・ゲートリハビリテーションセンター	4
ダル・アル・カリマ スクール	26
ルネッサンス スクール	1
●バイト・サフル	
良き羊飼いスクール	2
●バイト・ジャラ	
希望のスクール	12
●里子	
テラ・サンクタ学院	延べ 26 4
エフェタ聴覚障害者スクール	10
シラ養護スクール	2
聖ヨゼフ学院	8
ラサール学院	2
合計	
167	

日する双方の若者たちは、手放して相手側を仲間だと受け入れることはできないでしょう。それでも、対話を通じて和解の芽を創り出していくことが必要だと考えて応募してきた人たちです。細くとも対話の道を開いていくことを期待したいものです。

いま日本も、やられたらやり返す「自衛のための」武力行使がしやすくなる方向へ動いています。そんな「普通の国」を目指すより、戦後の貴い「非戦」の実績を生かして、紛争をなくすために働ける国として評価されたいものだと思います。聖地のこどもを支える会の活動は、その努力の一端を微力ながら担うものです。



## 支援金の自動払込みサービス

ご好評を頂いている自動払込みサービス。まだの方はぜひご利用ください。

- \* 毎回 郵便局へ払込みに行く手間が省けます。
- \* いつからでも、いくらからでも 簡単に始められます!

お申込み・お問合せは  
当法人事務局 **03-6908-6571**  
または **042-636-9218** (中山)

## 顔の見える支援 里親募集中!

ある特定の子どもの教育を、毎月一定の支援金で継続的にサポートする里親制度。一歩進んだ国際協力のかたちです。里親と里子の間で、写真や手紙の交換をすれば(任意)、個人的なつながりが持て、子どもの成長を身近に見守ることができます。

詳しくは、当法人事務局まで。

# 2014年度 総会のご報告

当法人の総会が去る6月15日(日)15時～17時に行われ、2013年度の事業報告書及び収支決算書が承認されたことをご報告いたします。  
2014年度の事業計画書と予算書も承認されました。

## 2013年度 収支計算書 (累計/予算対比)

2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位:円)

科 目		実 績(a)	年間予算(b)	(a)/(b)%
I 収入の部	1 入会金・会費収入			
	入会金収入	5,000	10,000	50.0
	会費収入	252,000	330,000	76.4
	小計	257,000	340,000	75.6
	2 寄付金収入			
	聖地のこどもを支える会への支援金	7,750,795	8,000,000	96.9
	青少年国際交流事業への支援金	1,193,272	1,600,000	74.6
	資産受贈益	3,040		
	小計	8,947,107	9,600,000	93.2
	3 国際交流事業への助成金	1,742,246	1,200,000	145.2
	4 国際交流事業のイベント収入	497,500	400,000	124.4
	5 「13平和の架け橋プロジェクト」参加費収入	1,000,000	900,000	111.1
	「14平和を願う対話の旅」参加費収入	3,760,940	3,500,000	107.5
「13平和を願う対話の旅・事後研修」参加費収入	69,000	100,000	69.0	
現地寄付金収入	56,295			
小計	4,886,235	4,500,000	108.6	
6 雑収入	31,993	1,000	3,199.3	
収入合計		16,362,081	16,041,000	102.0
II 支出の部	1 事業費			
	(1)教育支援事業費(A)	3,029,500		
	教育支援事業費(B)	95,796		
	小計	3,125,296	3,100,000	100.8
	(2)青少年国際交流事業費			
	「13平和の架け橋プロジェクト」	4,661,001	4,300,000	108.4
	「14平和を願う対話の旅」	3,570,588	3,700,000	96.5
	「13平和を願う対話の旅・事後研修」他	169,866	100,000	169.9
	小計	8,401,455	8,100,000	103.7
	(3)普及啓発事業費	1,396,708	1,300,000	107.4
	(4)情報収集事業費	60,000	60,000	100.0
	(5)報告会・講演会開催事業費	8,419	30,000	28.1
	事業費計	12,991,878	12,590,000	103.2
	2 管理費			
	交通費	108,380	70,000	154.8
	通信費(含宅配費)	184,186	180,000	102.3
	消耗品費	171,866	110,000	156.2
	会議費	15,579	20,000	77.9
	広報費		25,000	0.0
	資料費	41,365	50,000	82.7
	口座振替払込料金	109,395	125,000	87.5
	事務所経費	688,800	690,000	99.8
	給与(含通勤費)	2,066,550	2,100,000	98.4
雑費その他	273,288	130,000	210.2	
管理費計	3,659,409	3,500,000	104.6	
3 予備費		200,000	0.0	
支出合計		16,651,287	16,290,000	102.2
収支差額		-289,206	-249,000	
前期繰越収支差額		1,631,740	1,631,740	
次期繰越収支差額		1,342,534	1,382,740	

\*当月の試算表の当月末残高 1,342,534



# 支援団体・支援者のお名前

聖地のこどもの教育にご支援くださった皆さんです。

2013年4月1日～2014年3月31日（アイウエオ順：敬称略 匿名希望の方のお名前は省かせていただきました。）

## 支援団体

医療法人 かどもと眼科  
木村洋行(株)  
日本海洋掘削株式会社  
NPO国際協力NGOセンター  
イスラエル・パレスチナ若者  
カトリック片瀬教会  
カトリック北浦和教会  
カトリック金剛教会  
カトリック住ノ江教会  
カトリック高千帆教会  
カトリック田園調布教会 日吉家庭集会  
カトリック豊中教会  
カトリック直江津教会  
カトリック仁川教会  
カトリック姫路教会  
カトリック碑文谷教会  
カトリック富良野教会  
カトリック本郷教会  
カトリック松原教会  
カトリック瑞浪教会  
カトリック宮津教会  
日本礼拝教団巣鴨ときわ教会  
八王子復活教会  
三重県カトリック北部ブロック担当桑名教会  
S.J.ハウス  
愛徳カルメル修道会本部修道院  
栄光学園 愛の運動委員会  
援助修道会 管区本部  
援助修道会 修練院  
援助修道会六甲修道院  
大阪聖ヨゼフ宣教修道女会  
幼き聖マリア修道会  
オタワ愛徳修道女会 東仙台修道院  
お告げのフランシスコ姉妹会 ナザレ修道院  
オリーブの会  
カトリック鷺沼教会内古着プロジェクト  
カトリック聖クララ幼稚園  
カトリック田園調布教会 パスティーユの会  
カトリック松戸教会 コスモスの会  
カトリック百合ヶ丘教会コーヒーコーナー  
カトリック百合ヶ丘教会マリア会

カルメル修道会 聖ヨゼフ修道院  
カルメル修道会カルメル山の聖母修道院  
吉祥寺教会聖地のこどもを支える会  
久留米天使園修道院  
ケベック・カリタス修道女会本部修道院  
厳律シトー会天使の聖母トラピスチヌ修道院  
厳律シトー会灯台の聖母トラピスト大修道院  
江南高校12回生 代表 鹿島吉武  
坂出聖マルチン病院  
サレジアンシスターズ管区本部  
サレジオ修道会  
サンシティ聖母幼稚園  
宗教法人カトリック・カルメル修道会  
宗教法人カトリックイエズス会  
宗教法人カトリック淳心会  
殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会  
聖アンナこどもの家園児一同  
聖ヴィアンネ会 釧路支部  
聖地産品展示係  
聖ドミニコ宣教修道女会坂出聖マルチン修道院  
聖ドミニコ宣教修道女会松山修道院  
聖フランシスコ病院修道女会姫路修道院  
聖ベネディクト女子修道院  
聖母奉献修道会  
聖母訪問会 時津修道院  
東京カルメル会 女子修道院  
十勝カルメル会修道院  
ドミニコ会 本部事務所  
ドミニコ会聖ヨゼフ修道院  
長崎純心聖母会  
ノートルダム修道院  
ベタニア修道女会 江古田修道院  
ベルナデッタ第一修道院  
本河内カトリック教会 聖母の騎士 江原  
マリアの宣教者フランシスコ修道会  
マリアの御心会  
道の会  
目黒サレジオ幼稚園  
横浜雙葉小学校 母の会  
汚れなきマリアのクラレチアン宣教修道女会  
レデンプトリスチン修道院

## 支援者

新 直己 神父	伊東 止女子	太田 晴子	栢森 雅子	小谷野 泰
石黒 朝香	伊藤 裕幸・みどり	大竹 満	川口 節子	斉藤 直子
今井 陽子	伊東 夫佐	大谷 恵美子	川崎 伸明	西藤 幸子
Gonzalez Marquez Jose	伊藤 曜子	大友 幸子	川島 好枝	坂本 雄郎
Alfredo	稲持 茂美	大西 茂雄・美恵	川島 瑞枝	相良 敦子
KOYANAGI(小柳)	井上 静子	大野 直美	河田 昌世	佐久間 進
Roger Provencher 神父	井上 千賀子	大幡 順子	河野 貴代美	佐々木 郁子
Sr. 山沢 瀧子	井上 ちひろ	大部 優	川平 俊子	佐々木 羊子
相川 栄蔵	井上 伸之	大屋 菁示・和江	川村 栄子	佐々木 百合子
青山 博子	井上 春代	大八木 汜子	川村 直道	佐多 保彦
青山 美恵子	井上 英彦・つや子	大山 慈郎	川村 宏子	佐藤 和子
浅沼 誠子	井上 弘子	大和田 義郎	川本 和子	佐藤 克裕
芦川 恵美子	井上 瑞子	岡 晶子	瓦 妙子	佐藤 政信・トシ
東 幸江	今村 たえ子	岡 捷子	神田 郁	佐藤 光子
麻生 麗子	入井 智子	岡部 浩典	菊池 鈴子	佐藤 美津子
安達 マサエ	岩沙 晶子	岡本 みどり	菊池 マリコ	佐藤 裕子
新 圭子	岩崎 保寿美	小川 千枝子	木佐貫 七恵	澤 英資・明日香・希実・宗太郎
阿部 圭子	岩崎 正幸	小川 千都子	北島 房子	塩原 いね子
阿部 初音	岩崎 守・秀子	小川 泰弘	北楯 暢子	滋賀 秀三・瑛子
阿部 幸子	岩田 卓三	荻原 美保子	北原 豊子	篠原 誠吾
天田 雄次	岩永 千一・神父	奥村 聡	木村 俊夫	島田 ミサオ
新井 栄一	岩永 千代子	小山内 州一	木村 浩之	島田 みち子
新井 こずえ	岩本 憲嗣・八智子	小澤 知江子	木村 靖子	清水 堯子
新井 千賀子	因 シズエ	尾島 純子	喜山 聖子	清水 紀代子
荒川 淑	上田 毅彦	小田 淳	工藤 昭子	清水 泰二・育子
有田 美江	上野 瑤子	越知 哲夫	国峰 恵子	ジョージ・貴美子 ラザフォード
栗屋 美帆	氏家 阪枝	小野 修	栗栖 徹	白水 明代
アントニオ・ツゲル 神父	内田 芳人	小野 譲治	栗林 淳二	進 緑
飯島 喜久江	内村 睦子	小野 弘美・佐代子	栗原 健	菅野 滋子
家田 紀子	江波戸 晴夫	葛西 咲子	黒滝 津哉子	鈴木 絢子
五十嵐 京子	永廣 ひろみ	笠島 澄子	胡 美喜子	鈴木 サワエ
池端 千代	遠藤 栄子	片岡 康則	小出 宏子	鈴木 三蛙
石井 英子	遠藤 恵美子	片山 徹・キミ子	古賀 正・シツ子	鈴木 志帆子
石田 知子	遠藤 香恵子	加地 貴美子	国分 好子	鈴木 登喜子
石舘 要	遠藤 寛子	加藤 喜代子	小久保 俊三	鈴木 典子
石原 淳一	及川 幸子	加藤 恵子	小坂田 さち子	砂川 まり子
泉 知子	大泉 広・照子	加藤 千恵子	輿石 修古	角 加代子
磯部 富子	大岡 よし江	加藤 まりこ	小塩 隆二・恒子	住駒 禎子
市川 黎子	大川 章代	加藤 由美子	小谷 美絵子	関口 素子
一重 弥生	扇谷 良廣・ウタ子	金子 由佳	小西 羊一・一枝	瀬戸口 玲子
井手 雄一	大澤 由紀子	蕪木 直江	小林 明子	高馬 和子
伊藤 初江	大田 孝	鎌田 英明	小林 久美子	高島 友子
伊東 瑛子	太田 あさ代	鎌田 まさ子	小林 美紗子	高島 文枝
伊藤 多恵子	太田 輝男・恵子	釜谷 公子	五味 美香子	高田 明子



高田 統・陽子	土本 志保子	箱田 昌平	本田 敬子	山来 真理子
高田 由美・世津	土屋 道子	橋本 和子	本間 早苗	山口 裕子
高塚 富士子	筒井 三喜子	服部 英子	牧瀬 翠	山田 千秋
高野 千草	角田 和子	花房 史子	牧野 和夫	山田 千恵子
鷹觜 達衛 神父	手子 ヤエノ	濱口 吉右衛門	馬越 由美	山田 剛・路子
高橋 和子	手嶋 直美	濱田 達男	眞下 まゆみ	山田 真樹代
高橋 久子	寺田 京子	Sr.早川 昌江	榎谷 紀子	山田 真理子
高橋 玲子	戸井 利子	林 一江	増満 由美子	山田 康子
高比良 國廣・テイ子	得田 照	林 あい	松井 瞭博・建子	山本 勝也
高平 芳郎・たつみ	戸澤 華江	林 敏恵	松岡 啓貴	山本 佳子
高柳 美恵子	富岡 未峰	早田 治子	松岡 美也子	杠 愛子・隆志
高山 早代	富澤 由利子	葉山 文子	松崎 武晴	尹 得漢・マリア
田川 照子	富田 道代	原 和枝	松田 喜代子	横沢 文子
田口 穰一郎・幾子	内藤 和子	原科 節子	眞山 かほる	吉川 英子
武井 博・範子	中井 さつき	半田 和巳	丸山 亘子	吉川 美恵子
竹川 典秀	長井 外美子	東 純子	三井田 美恵子	吉川 八重子
竹葉 純子	長倉 禮子	東 賢太郎	三浦 和子	吉川 陽子
竹原 芳子	中小路 和子	日紫喜 満章	三浦 千鶴子	吉田 恵子
竹脇 美帆子	中澤 リナ	兵藤 秀彰	三国谷 憲雄・信子	吉田 友一
田島 久仁子	長坪 光	平賀 徹夫 司教	三島 八重子	吉田 三代江
伊達 由美子	中野 剛	廣川 千代子	水谷 とし子	Sr. 吉田 有子
立林 久美	長野 楽・きみ彖	深澤 恵子	溝井 光子	吉田 良三
建部 正秋	中村 美弥	深澤 美知子	光藤 操	吉留 昌子
立脇 和夫	中村 季子	深田 久子	簗島 すみれ	吉村 糸子・潔子
田中 加奈恵	中村 ミツノ	深津 利子	宮川 園絵	吉村 三喜代
田中 節子	中本 岐余子	深堀 柱	宮倉 満子	李 アンナ
田中 伸枝・祐子	中山 公子	福井 潔	宮下 幸恵	李 貞才(ソフィア)
田中 典子	中山 宏・夕里亜	福崎 康代	宮田 靖子	劉 順玉
田中 博正	永吉 恵子	福島 里美	宮野 美智子	ロランド・ピエール 神父
田中 翠	浪治 典夫・道男	福瀬 <に>子	三好 和枝	和田 俊一
田中 禮子	西田 満	福田 青柳	向井 喜代美・孝志	渡辺 こずえ
田辺 知之	西田 百合子	福田 幸子	村岡 秀子	渡辺 征子
田辺 ヒナ子	西脇 政雄	藤井 啓子	村上 京子	渡辺 武雄・節子
谷川 次子	野口 雅子	藤代 純一・真知子	村上 泰子	渡部 朋子
谷口 寿美枝	野坂 静子	藤村 宏子	森本 明子	渡辺 延子
種田 清子	野田 健太郎・鈴枝	Sr. 藤本 保子	森谷 けい子	渡邊 優子
田畑 孝子	野田 征子	藤原 伸子	安川 三保子	渡辺 禮子
玉井 美里	野田 寛	藤原 真理子	安田 美知子	渡部 美佐子
玉井 光江	ノックス 和美(Kazumi KNOX)	古川 裕徳・由紀子	矢田部 公仁子	
玉置 幾久榮	野村 晋一	古本 佳世子	宿澤 恵子	
玉木 美都江	野本 芳子	古屋 恵子	柳田 和佐	匿名希望(7)
丹呉 喜美子	乗倉 寿明	古屋 径子	藪 玲子	
柘植 薫	Harvey Paul A.S.	細工藤 真理	山内 亨子	
塚田 道子	萩原 正和	堀川 徳美・イセヨ	山内 春治	

## 町で出会った子どもたち

写真提供 有馬 啓介、稲垣 佐江子、井上 弘子、佐藤 克裕



▲ゴラン高原、シリアとの国境の最前線の入植地に住むユダヤ人一家。後ろはすでにシリア領土。



▲誕生日の花束を持つパレスチナ人の男子たち（エルサレム）

### 平和の架け橋プロジェクト支援 「友好の夕べ」のひとコマ

7月19日、東京四谷の若葉修道院で開かれた「イスラエル・パレスチナ・日本 友好の夕べ」。大使館の方を招いて、有意義なひとときを過ごしました。ガザ地区で現在も続いている軍事行動の一日も早い終息のために、100名あまりの参加者みなさんと、黙祷しました。

ソプラノ歌手の家田紀子さんがすばらしい歌声を披露、またプロジェクトに参加する若者が交替で決意をのべました。



◀教会の祝日、パレスチナ人の子どもたちは花輪の冠をつけたりしておめかしします。



▲家田紀子さんソプラノコンサート。



▲イスラエル大使館の文化担当官ニール・ターク氏。



▲パレスチナ人シェフのシャディさんとイスラエルのダニーさん、友好の笑顔。



▲プロジェクトの紹介。  
◀シャディさんによるパレスチナ料理。